

令和4年度 都立紅葉川高等学校 経営報告

1 今年度の取組目標と方策（☆は重点目標）

（1）学習指導

①目標

思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 授業の改善を図る。 ア)主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりを図り、思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。 ・考えさせる発問、考えさせる課題 ・文章や図、表の読み取りと分析、まとめと発表。 イ)英語については、4技能の育成を図る。	ア 授業改善の取り組み ア)主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりへの取り組み状況 ・全ての教科において思考力の育成を図ってきたが、新型コロナウイルスの影響で、発表には限界が生じた。 イ)4技能育成のための英語での活動の充実
イ 学力の向上を図る。 ア)模擬試験やスタディサポート結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を行う。 イ)家庭学習の習慣づけ。 ウ)土曜講習の有効活用。 エ)学習コンテンツの効果的な活用	イ 学力向上への取り組み ア)学年毎の分析結果に基づいた個別指導を実施。 イ)1年生から学習コンテンツを導入し、新たな家庭学習習慣の確立に取り組んだ。 ウ)年間を通じて隔週で実施した。 エ)空き間時間を有効に活用。

③課題と改善策

ア 生徒の学習意欲に大きな差があり、意欲的に取り組む生徒は学力の向上が著しい。学力が低い生徒の中には、自分自身の学習方法が分からなかったり、学習習慣が身につけていないので、今後も継続的に個に応じた丁寧な指導を組織的に行っていく必要がある。

イ 家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多数見受けられる。生徒自身に卒業後の目標を早期にもたせ、学習に対する意欲を喚起する必要がある。土曜講習及び学習コンテンツの導入は一定の成果が表れた。

ウ 英語の授業で全ての教員が4技能の育成に取り組む工夫を図っているが、今後一層の効果的な指導に組織的に取り組む必要がある。

エ 授業中のICT機器の活用はかなり進んだ。今後はオンラインでの授業配信を含め、より効果的な活用が図れるよう一層の工夫が必要となる。

（2）進路指導

①目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図らせる。

生徒の意識を「行ける大学に進学する」から脱却させ「行きたい大学に進学する」に高める。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 計画的な進路指導の充実 ア) 模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした指導を徹底する。(模試の分析会、生徒集会、面接、出願検討会、ケース会議を行い、活用する。)	ア 計画的な進路指導の充実 ・ データを用いて大学出願検討会を実施し、三者面談週間に活かした。 ・ 4年制大学進学率 68.5%(R3 63.1, R2 58.0, H31 50.6%) ・ スタディサポート毎に報告会を実施。結果を担当教員が分析し、対策を立て報告会で共有した。 ・ 一般受験にチャレンジする生徒が増加した。 一般選抜 48%(R3 38%, R2 39%, H31 16%) 推薦・総合型 52%(R3 61%, R2 61%, H31 84%) ・ 中堅校以上の大学受験者数が増加した。 日東駒専以上 54名(R3 20名, R2 33名, H31 7名) ・ 3学年は朝学習、放課後の勉強会を実施。
イ 学習機会の充実 ア) 家庭での学習機会を増加させるため、自習室の活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及び土曜講習や学習コンテンツでの学習の機会を整える。 イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する。 ウ) 長期休業中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。	イ 学習機会の充実 ア) 自習室で3密を回避しながら有効に活用した。真に学びたい生徒を土曜講習受講者とした。 イ) 2つの部活動で部活動単位の学習を実施。 ウ) 学習コンテンツを有効に活用するなど、自宅学習ができる課題の提供や講義のオンライン配信を行った。
ウ 推薦入試や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。 ア) 進路指導部を中心に面接や小論文指導を全員体制で行う。	ウ 推薦入試や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。 ア) 管理職を含め、進路指導部を中心とした組織的な面接指導及び小論文指導を徹底的に行った。
エ 新大学入試への対応 ア) 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法の検討を行い、充実した探究活動を行う。	エ 新大学入試への対応 ア) 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法の検討を複数回入念に行い、SDGsをテーマとし充実した探究活動が行える体制を整備した。
オ キャリア教育の充実 ア) 高校生活の目的意識を深めさせるため、将来働くことの意味や生き方を考えさせる。 イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。	オ キャリア教育の充実 ア) 各種進路行事や講演会を実施し、発達段階に応じた将来の意義を考えさせた。 イ) HR活動を活用し在り方・生き方教育に取り組み、個々の目標を定めさせた。

③課題と改善策

- ア 模試の内容を生徒の学力に適合したものを、全員が年間5回受験するようにした。更に大学進学希望者向けの模試を設定している。この模試結果を進路指導に生かすべく、進路指導部がリードしてデータによる進路指導の体制を構築している。一方で、模試の事前指導や事後の分析が十分に行えているとは言い難いため、次年度は模試の回数を減らし、質を高める事とした。
- イ 大学入試制度が変わり、測られる学力が変わった。その変化に対応できる思考力、判断力、表現力や主体性の育成と学力水準の向上が十分とは言えない。そのため家庭での学習習慣をより身に付けさせることが重要となる。また、読解力の向上も課題となる。
- ウ 大学入試制度の切り替わりの中で、受験生の不安は依然高く、不安を抱く生徒程、推薦や総合型選抜で早期に決めようとする傾向が見られた。その一方、一般選抜にチャレンジする生徒も大幅に増加し実力相応校に手堅く合格すると共に、大学入学共通テストの受験者数は昨年度比で17名増加し、140名となった。今後も推薦や総合型選抜に依存せず、一層一般選抜にチャレンジし、学びたい大学に入学できる生徒を育成していくことが課題となる。

(3) 生活指導

①目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 規律指導の徹底 ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。 イ) 年間3回いじめアンケートを実施し、記述内容から問題を早期に発見し、速やかに解決を図る。	ア 規律指導の徹底 ア) 生徒会が主体となって作成したSNS紅葉川ルールを生徒に周知し、生徒が自主的に適切な使用方法を身につけた。 イ) 年間3回のいじめアンケートでは、気になる記述は担任が面接し確認するなど速やかに対応した。

③課題と改善策

ア SNS等による問題行動は顕在化することはなかったが、いつでも起こりうることを認識し、情報モラルの指導をあらゆる機会を通して行う必要がある。

イ いじめについても顕在化することはなかったが、いつでも起こりうることを認識し、生徒の様子を注意深く観察していく。

ウ 学校全体として、生徒の身だしなみは落ち着いているが、極一部に頭髮と女子のスカート丈と化粧が課題となる生徒がいる。学校全体として組織的な対応が必要となる。

(4) 特別活動・部活動

①目標

学校への帰属意識や人間関係形成能力、自己肯定感、主体性を高める。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 学校行事 ア) 体育祭・文化祭等、実行委員会を中心に、生徒が主体となって活動する機会を多くする。	ア 学校行事 ア) 今年度は3大学校行事である体育祭、文化祭、合唱コンクールの全てを新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら全て実施した。
イ 部活動 ア) 部活動加入率を高める。 イ) 外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を実感させる。 ウ) 練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。	イ 部活動 ア) 加入率 87.8% (R3 87.7%, R2 88.4%, H31 87%) イ) 外部指導員は7名を維持し、それぞれの部活動で技術指導が充実し、生徒の技術向上がみられた。 ウ) 練習計画を見直すと共に、効率的な活動とした。
ウ 地域との交流活動の活発化 ア) 地域行事や施設等への参加や手伝いを行うとともに、特別支援学校や小学校・中学校との交流活動を行う。	ウ 地域との交流活動の活発化 ア) コロナ禍であり、地域の町内会のお祭りの手伝いや近隣の小学校で水泳指導は一切できなかったが、本校でのふれあいフェスティバルは実施した。
エ オリンピック・パラリンピック教育の推進 ア) アスリートとの交流活動を年間1回以上実施 イ) 特別支援教育学校との交流活動を年間1回以上実施。 ウ) 海外の人との交流活動を年間1回以上実施。	エ オリンピック・パラリンピック教育の推進 ア) 新型コロナの影響があり、一切実施できなかったが、子供を笑顔にするプロジェクトは盛況であった。

③課題と改善策

ア 新型コロナの感染防止対策十分に行いながら、体育祭・文化祭・合唱コンクール及び修学旅行を実施した。特に合唱コンクールは3年生が不在の中、一から作り上げた。

イ 部活動では高い加入率を保ち、コロナの感染防止対策を講じた活動とした。

ウ 7名の部活指導員は、会計年度任用職員として勤務し、部活動の技術力の向上に加え、教員の業務軽減にもつながっている。今後は顧問の一員として引率業務を行うなど、一層部活指導に力を発揮してもらうことが期待される。

エ 地域や特別支援学校、小・中学校との交流再開の機会を多くもつようにする。

(5) 学校経営

①目標

社会の変化に対応した教育活動をPDCAサイクルに基づき、組織的に行える学校づくりを行う。また、ライフ・ワークバランスを確保できる環境をつくる。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 人材育成 ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。前例踏襲型ではなく、課題解決型で仕事を行う。 イ) 主幹教諭、主任教諭から若手教員等への指導を徹底する。	ア 人材育成 ア) 主任教諭を主だったポストに配置し、課題を整理し、企画調整会議で解決策を提案するなど効果が見られた。 イ) 9名の若手教員育成研修対象者に対し、研究授業などを通じて丁寧な指導を行った。
イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は50分を上限とする。) イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。	イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 企画調整会議を効率的なものとし、職員会議は50分以内とした。 イ) 電子起案の徹底を図り、95%を超えた。
ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす ア) 部活動で外部顧問を活用し、引率や指導を必要最少の人数で行い、ライフ・ワークバランスを確保する。	ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす ア) 7名の部活動指導員を活用し、教員の負担軽減を図った。 イ) 勤務時間以外の在校時間が80時間以上の教員に対し、校長面接、産業医面接を行った。
エ 服務事故防止に努め、信頼される学校を作る。 ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いはルールを遵守する。 イ) 部費の管理をルールに基づき、適切に行う。 ウ) 服務事故防止研修を年間2回以上開催するなど、体罰・暴言他、信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。	エ 服務事故をゼロとした。 ア) ルールに基づき慎重に扱い、複数名によるチェック体制を徹底した。 イ) 適正な管理体制が構築されている。 ウ) 人権意識の醸成を図り、服務事故をゼロとした。
オ 適正な予算執行と施設管理の徹底 ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。 イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。 ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応する。	オ 適正な予算執行と施設管理の徹底 ア) 適正な会計処理を行った。 イ) 授業料や学校徴収金の管理は適正に行った。 ウ) 破損や老朽化による不調は生徒の安全を第一に速やかに対応した。

③課題と改善策

- ア 教員経験の浅い若手教員が多い職場なので、様々な職務を経験させ、教師としての力量を高めるとともに、今後もOJTの中で人材育成を図っていくことが重要となる。
- イ 部活動指導や教材研究、生徒指導に熱心となり、在校時間が長くなりがちな若手教員が多い。仕事の効率化を意識させるとともに、産業医面接を有効に活用する。
- ウ 部活動指導員を有効に活用し、時間的負担の軽減を図る必要がある。
- エ 今後も体罰・暴言の防止、個人情報の適正な管理等を徹底し、服務事故を行ない環境づくりが必要である。

(6) 募集・広報活動

①目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携、中心になって組織的な広報活動を全教職員で行い、本校の特色を中学生に広く周知する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 情報発信の強化 ア) ホームページのリニューアルと更新頻度の向上 ・ホームページの構成及びトップページの見直し ・行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子をタイムリーに掲載する。 イ) 保護者への情報発信 ・保護者向けのお知らせや案内を掲載する。	ア 情報発信の強化 ア) ホームページのリニューアルを年度当初に行い、より見やすい構成とした。 ・体育祭・文化祭・合唱コンクールや修学旅行等一定の制限の中、全ての行事を実施し掲載した。部活動も制限下での活動ではあったが、現状の様子を掲載した。 イ) コロナの影響で生徒・保護者への通知文や連絡の掲載などHPの役割が高まった。
イ 募集対策の強化 ア) 中学校及び学習塾への訪問を全員で行う。また、生徒には近況を報告させるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。 イ) 学校説明会や授業公開では中学生や保護者に環境整備を含め丁寧な対応に努める。	イ 募集対策の強化 ア) 新型コロナウイルスの影響を考慮し中学校・塾への訪問などは控えた。 イ) 校内環境の整備をした。 ・コロナの感染拡大防止対策を確実に取った上で、安心して参加していただく環境を整えた。 ・学校案内をより見やすい内容に改訂した。 【入選応募倍率】 ・推薦入試応募倍率 2.45 倍 (R3 3.76, R2 3.70) ・一次応募倍率 1.24 倍 (R3 1.63, R2 1.46)

③課題と改善策

ア 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中学校や塾の訪問は限定的とした。学校説明会は大幅な人数制限をかけるとともに、受付時のアクリル板、手指の消毒用アルコールの設置等万全の態勢を取った中で実施した。学校案内はより分かりやすい内容に改訂した。

イ 地域からの評判が高まる学校となるよう丁寧な生徒指導を今後も継続していく。

(7) 安全・防災・健康教育

①目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 防災訓練 避難訓練、宿泊防災訓練を通じて災害時における初期の基本動作を身につけさせる。	ア 防災訓練の充実 新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらの訓練とした。実際の避難経路の確認、人員の確認に重点を置いた。
イ 交通事故防止 セーフティー教室等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険への加入を義務化する。	イ 交通事故の防止 自転車通学者の自転車保険加入率 100%とした。
ウ 健康管理及び教育相談 ア) スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、当該学年、生活指導部、管理職間で情報を共有する。 イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用する。	ウ 健康管理及び教育相談 ア) 毎月、教員、スクールカウンセラーで情報交換を行い、生徒に関する情報の共有を図り、早期の問題解決につなげた。 イ) SCによる教育相談に関する校内研修を1回実施するとともに専門家によるがん教育を実施した。

③課題と改善策

ア 相談体制の充実を図り、早期に様々な問題を解決できた。新型コロナウイルスに関する生徒の相談案件もあることから、今後もこの体制を継続していくことが重要である。

イ 近隣の小学校の登校時刻と本校生徒の登校時間が重なると、危険度が高まるので、乗り方マナーを徹底した。自転車の乗り方指導は今後も繰り返していく必要がある。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	R 4 度	R 3 年度
ア 生徒の本校に対する満足度	9 0 %	8 7 %	8 5 %
イ 生徒の授業に対する満足度	9 0 %	8 5 %	8 7 %
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	9 0 %	8 1 %	8 0 %
エ 生徒の行事に対する満足度	9 0 %	8 7 %	8 1 %
オ 生徒の部活動に対する満足度	9 0 %	8 7 %	8 9 %

② 生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	R 4 年度	R 3 年度
ア 4 年制大学進学率	6 5 %	6 9 %	6 3 %
イ 日東駒専の合格者数	3 0 名	2 9 名	1 9 名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	5 名以上	7 名	1 名

③ 生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	R 4 年度	R 3 年度
ア 推薦による入選の応募倍率 (男女平均)	3 . 8 倍	2 . 4 5 倍	3 . 7 6 倍
イ 学力検査による入選の応募倍率 (男女平均)	1 . 6 倍	1 . 2 4 倍	1 . 6 3 倍

④ 生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	R 4 年度	R 3 年度
ア 1・2 学年家庭学習時間：平日 1 時間以上の割合 (第 2 回スタディサポート結果)	5 0 %	1 年39.3%	1 年33.3%
		2 年24.4%	2 年18.5%
イ 部活動加入率 (5月1日時点)	9 0 %	8 8 %	8 8 %